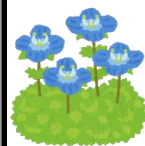


心を HUG～つながりの中で～
令和2年度やましろ未来っ子はぐくみネットワーク
推進協議会



山城教育局では、「やましろ未来っ子はぐくみネットワーク地域支援事業」において、「やましろ未来っ子はぐくみネットワーク推進協議会」を設置しています。本協議会は、山城地方における家庭教育支援の実態の把握に努め、積極的かつきめ細やかな家庭教育支援に向けたネットワークづくりを推進し、社会総がかりで子どもを守り育てる環境づくりを進めています。

企画運営に携わっていただいています協議会委員の皆さま

会 長	京都文教短期大学ライフデザイン学科 教授	森川 知史
副会長	木津川市社会教育委員 副委員長	高原 和子
委 員	京都医療少年院 法務教官	青木 英明
	元保育園長・城陽市子育て支援課職員	大西 康子
	京田辺市民生児童委員	島谷 千織
	男山第二中学校区 学校支援地域本部長	金子 啓子
	山城地方小中学校長連絡協議会副会長 木津川市立木津川台小学校長	田中 成一
	山城地方 PTA 連絡協議会副会長	橋本 康史
	山城北保健所 綴喜分室長	宮崎 純子



令和2年度事業内容

- 第1回子育てサポータースキルアップ講座(令和2年6月28日) 中止
- 第2回子育てサポータースキルアップ講座(令和2年8月3日) 中止
- 第3回子育てサポータースキルアップ講座(令和3年1月26日開催予定)

- 第1回推進協議会(令和2年7月28日)
- 第2回推進協議会(令和2年10月9日)
- 第3回推進協議会(令和3年1月26日開催予定)



やましろ未来っ子はぐくみネットワーク推進協議会委員の皆さまからの一言



森川 知史(もりかわ としふみ)です。京都文教短期大学ライフデザイン学科で主にコミュニケーションをテーマに講義しています。人との話し方、向き合い方、関わり方等を受講生と一緒に考えています。

社会教育にも長年関わってきました。よりよい社会を考えるとき、人間関係のあり方は常に不可分の課題です。

子育てというのも、個別の家の中に閉じ込められたプライベートなものではなく、地域社会でのあらゆる人間関係の中で捉えられるべきものでしょう。子どもがどのように育って行くかは、大人たちの関係がどのようなものであるかによって異なってくるはずです。

そんな視点で現状の子育ての課題を見て、議論して、皆さんと一緒に模索して行きたいと思います。



森川 知史 会長

はぐくみネットワーク推進協議会の高原和子です。家庭では、三人の子供たちも、それぞれに家庭を持ち、父親、母親になりました。孫は高校生から1歳児まで「7人の孫」皆、それぞれ個性的で、楽しませてくれます。これまでに「吸って吐いて自然体!歌は心のコミュニケーション」を目標に合唱団の指導をしてきました。長い事、あたり前のように練習して毎年ステージ発表をしていましたが、今年、コロナ禍で全て活動はなくなりました。

長いお休みを体験して、今までのあたり前の生活を深く考える「時間」を持ちました。

ボチボチ練習も始まり再び歌える事に感謝です。



高原 和子 副会長

「支援で変わる子どもの未来」と、大きな目標を掲げ、中・小・幼・こども園の安全、学習、環境、クラブの支援活動をしています。

地域の子どもに寄り添いはぐくむことが、大人の生きがいや楽しみになる活動として、平成21年に発足して現在134名の支援員がいます。毎日の登下校で子どもの顔を見て挨拶を交わすことが、学校の花壇を子どもと一緒に耕せることが、私たちの元気の源と支援員は言います。こんな優しい校区で本部長をさせていただいております。

学校と地域社会の教育力がアップできるように、健康に留意して続けていきたいと願っています。

八幡市男山第二中学校校区学校支援地域本部
本部長 金子 啓子



金子 啓子 委員

皆さまこんにちは、島谷千織と申します。私は松井ヶ丘で民生児童委員を16年間、同じく文庫活動もさせていただいています。子育て中のお母さま方からご高齢の方までご一緒する機会に恵まれ、顔見知りの方も増えて嬉しく思っています。

今年は、コロナ禍の中、学校が再開され、近所の子たちが嬉しそうに登校する姿を見えています。我が家は3人の子どもが、6年・3年・年長の時アメリカに行き、新学期まで約3ヶ月間学校がなく、早く学校へ行きたい～と言いだしたのを思い出しました。子どもたちにとって学校って大切な素晴らしいものなのですね。これからも、地域の子たちを見守り応援していけたらと願っています。

また、地域のみなさまから気軽に声をかけていただけるように、顔の見える横の関係を大切にしていけたらと思っていますので、よろしく願いいたします。



島谷 千織 委員

今年も乳幼児の子育て中の方に目を向けながら委員をさせていただきます。自粛生活の間、人と関われない生活となり信頼関係を築いていく乳幼児期にはとてもつらいことでした。手洗いやうがい、こまめな換気は大人が気をつけられますが、子どもは本能的にすぐ集まってしまうし、触れ合うし、興奮して大きい声も出します。

先の見えない不安な感染症ですが、当たり前のできる事の幸せや命の大切さを知らせていきたいと思っています。



大西 康子 委員

今年度、はぐくみネットワーク推進協議会委員として山城地方小中学校長連絡協議会から参加させていただいています、田中成一と申します。学校という場を通して見える子どもたちの状況や課題、家庭や地域の様子等について、他の委員様と意見交流を図りながら、子どもたちを取り巻く環境をよりよいものとするために、今後も精一杯務めていきたいと思えます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、年度当初から臨時休校や分散登校となり、また、学校再開後も「学校における新しい生活様式」を取り入れながら、指導内容の変更や工夫をして教育活動を推進してきました。学校行事や取組を中止・延期せざるを得ない場合も多く、子どもたちは、状況を受け入れながらも、心に大きなストレスを抱えているのだろうと危惧しております。

本事業を通して子どもたちがこれからも前向きに生き生きと過ごしていけるような方策をご提案できればと思えます。よろしくお願い致します。



田中 成一 委員

私は京都府南部の郡部福祉事務所に勤めております。ここでは生活保護、ひとり親家庭の支援、特定疾患の医療費制度支援、生活困窮者支援などを担当するところです。そこで仕事上、困難な状況におかれている子どもたちのことを聞く機会も多く、心を痛めております。それぞれが抱える課題の内容や困難な状況は様々ですが、いろいろな機関の人、例えば、学校の先生、スクールソーシャルワーカー、民生・児童委員、子育て機関、またプライベートでもご近所の親切な人、親戚等、「助けて」と声を上げれば誰かが必ず助けてくれる社会であると思います。

すべての子どもたちが幸せになれるように祈って日々仕事をしております。

山城北保健所綴喜分室 宮崎純子



宮崎 純子 委員

初めまして、橋本康史と申します。

元横綱の貴乃花と同じ生年月日・同じ名前・同じ血液型です。

京都府唯一の村の南山城小学校でPTA会長をしています。

妻と小学生2人保育園児1人の5人家族でのんびりと暮らしています。

PTA会長になって初めて、各地域でPTAが活動し、様々な団体の方々が学校教育や家庭教育支援について考えて、勉強し、発信していることを知りました。

恥ずかしながら、今までは学校に頼りっきりでした。

今回のこの機会を得て、今までの生活する中では接する機会のない方と話す機会もあり、大変刺激を受けました。

自分も、もう一歩踏み込んで子育てに参加しようと思いました。

よろしくお願いします。



橋本 康史 委員

昨年度からはぐくみネットワークに参加させていただいている青木です。本年度は少年非行に携わっていることから、昨年度とは少し違った視点で協議会の皆様の御意見を拝聴し、勉強させていただいています。

新型コロナウイルスの拡大が止まらない中ではありますが、こういう時だからこそ、大人と子どもたちとの結び付き、

支え合いの大切さを再認識する機会になればと感じています。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。



青木 英明 委員